

大館の歴史散歩

近代化とその遺産⑪

秋田杉とともに

秋田音頭に歌われている「大館曲げわっぱ」。その材料である秋田杉は、慶長七年（一六〇二）に秋田へ国替えを命じられた佐竹義宣公が、鉾山の開発と共に林制を定めて乱伐を防ぎ、森林の保護に努めた結果、日本三大美林のひとつといわれるようになった。米代川流域の県北一帯がその中心で、なかでも長木沢は随一といわれ、緻密な年輪の糸目杉は最高の柁目材であった。



大正11年ころの北秋木材株

明治時代になると、国が山林を国有林として経営するようになり、保護育成した。しかしこの美林も、日露戦争前後の軍備拡張に伴う小坂鉾山の精錬量

の増加などによる煙害で、次第に美しさが失われていった。煙害による被害木は、国家財政の収入源として明治三十八年から大正十一年ごろまで伐採整理が行われ、明治三十八年に代野貯木場、同四十年に官営代野製材所が設立された。

民間製材所としては、明治三十九年に小坂鉾山長木沢製材所、大正二年に丸正製材所、大正四年には、官営代野製材所の廃止（大正三年）により機械の払い下

げを受けた平泉合資会社が設立されている。大正八年には大館町の平泉合資会社と扇田町の浅野製材所が合併して、北秋木材株式会社（資本金七十万円）を設立した。昭和七年の資料によると、製材機械二十四台を有し、職工数二百二十人と、県内でも有数の製材会社であった。また、北秋木材は大館駅に隣接して建築され、筏流しによる原木運搬方法から鉄道による大量輸送を図った。昭和初期の同社構内図に、大館駅から引き込み線が敷かれているのを見ることが出来る。

北秋木材、阿部製材所など大館の製材所八社による昭和二年から六年までの使用木材量は、杉が二十五万六千七百八十六立方尺、他の針・広葉樹が十四万一千七百五十四立方尺で、大館醸造器合資会社、合資会社大塚勇助など樽丸業者八社が使用した製板に適さない疵丸太材などの使用量は、十四万四千九百九十一立方尺であった。

大館市の製材工場数は、昭和四十年をピークに年々減少し、それに伴い生産量及び木材入荷量も減少した。

参考文献

「大館営林署管内概要」

「秋田杉物語」

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『スイス吟行』
江國 滋 著 新潮社

美しい町、静かな村を汽車・車・馬車・船に乗り、俳句問答をしながら続けた絶妙コンビの旅。俳人・鷹羽狩



行氏とのスイス1周10日間の旅を、著者のスケッチとともにつづる海外俳句紀行。

◇菜多沙（子安美知子）◇青が散る（宮本輝）◇悲しみの港（小川国夫）◇恵比須屋喜兵衛手控え（佐藤雅美）◇密輸（D・フランス）◇依頼人（ジョン・グリシャム）◇人さまの迷惑（出久根達郎）◇だから料理が好きになる（小林カツ代）◇小さな歴史と大きな歴史（塚本学）◇日本歴史地名事典（吉田茂樹）ほか

◇ゲーサンとクロヒョウ（斉藤洋）◇しゅてんどうじ（木島始）◇だれも欲しがらなかったティディベア（J・アルバーグ）◇トカゲが笑った日（中野幸隆）ほか

2月のテーマ関連図書コーナー

『冬のまつり』

親子読みきかせ会

毎月第1金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日

2月20日、24日

クイズ 広報 おおだてがヒント

- ▽問題
- ①公共下水道の排水設備工事。義務期限は供用開始から何年？
 - ②市の除雪は降雪何センチで出動？
 - ③大館大文字まつりポスター原画募集。締め切りは何月何日？
 - ④建築物防災週間はいつからいつまで？
 - ⑤官営代野製材所が設立されたのは明治何年？

- ▽締め切り 2月24日(木) 当日消印有効
- ▽応募先 〒017大館市字中城20番地
- ※全問正解者の中から抽選で5人に、秋田犬のオリジナルレホンカードを贈ります
- ▽1月16日号の答え
- ① 36万円
 - ② 10年10月
 - ③ 2月2日
 - ④ 81平方尺
 - ⑤ 27年
- ▽1月16日号の当選者
- 菅原裕子さん（羽立）
 - 山崎英子さん（下代野）
 - 浪岡友子さん（新沢）
 - 松崎修さん（白根山団地）
 - 高橋和子さん（中神明町）
- ※応募総数143、全問正解者123



広報おおだては再生紙（古紙50〜70%）を使用しています